

【福岡県】久留米市水田農業推進協議会

方法



協議会の概要

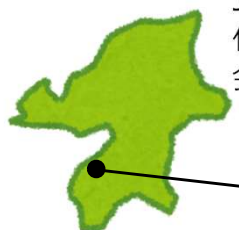
申請件数・確認面積：

1,600件、6,500ha

主な申請品目：麦、大豆、飼料作物等

協議会事務局：市役所、JA、
農業共済等

経安主担当者：市職員5名、
JA職員5名、
任期付職員5名
会計年度職員4名



福岡県久留米市

現在の現地確認方法の導入経緯

- 紙地図作成等、**現地確認のための準備時間やコスト**がかなりかかっていた。
- 農事組合長へ協力を依頼していたが、負担も伴う上、**熱中症のリスク**等もあり、**事務局だけで完遂できる方法**を考え、タブレットの導入に至った。

現地確認の方法（対象筆数：50,000筆）

	導入前（R2年度まで）	現在（R3年度から順次導入中）
方法	目視（ <u>立札</u> 、 <u>紙地図</u> 、 <u>野帳</u> ）	目視（I <u>タブレット</u> / II 立札、紙地図、野帳）
確認者	事務局＋農事組合長	I 事務局 / II 事務局、農事組合長
時期・回数	4月、8月、その他適宜	4月、8月、その他適宜
手順	①事務局が立札、紙地図、野帳等を作成 ②市→農事組合長に立札等を配布 ③農事組合長が立札を圃場に立てる ④農事組合長、事務局が紙地図を用いて目視確認 ⑤農事組合長が立札を回収 ⑥事務局が確認結果を台帳に入力	I タブレット ①市→業者へデータを渡す ②業者がタブレットに作物情報を入力 ③事務局がタブレットを用いて現地確認 ④事務局が確認結果を台帳に入力 II 立札、紙地図、野帳 一部地域ではタブレット導入前のため、従来通り、目視確認（同左）を行っている
費用	約1,450,000円 （農事組合長への謝金）	導入費用： I 約1,331,000円（R3年度） 運用費用： I 約1,892,000円（R7年度見込） II 約 300,000円（R7年度見込）

導入の効果（メリット）

- 紙地図等を作成しなくて良くなったこと、農事組合長との調整等が**不要**になったことによる**業務時間削減**。
- 農事組合長への謝金の削減。
- 現地確認従事者の**負担やリスクの削減**。
- GPS機能があり、撮影した写真を地図に紐づけられるため、**写真と地図のミスマッチがない**。

課題・問題点（デメリット）

- システムの反応速度が遅い。
- システムの不具合が生じた場合、現地確認が行えない。
- 委託料が年々増加している。